

林遺跡第7次発掘調査報告書



2020
掛川市教育委員会

例　　言

- 1 本書は掛川市吉岡に所在する林遺跡の第7次発掘調査報告書である。
- 2 調査は建壳住宅2棟の建築に先立ち、地権者からの委託を受けた掛川市教育委員会が実施した。
- 3 調査に係わる費用は、全額委託者が負担した。
- 4 現地調査は平成31年4月8日～12日に実施した。
- 5 発掘調査ならびに整理作業にあたっては、次の方々の参加を得た。（五十音順）
太田敏子、小笠原国重、早乙女のぞみ、鈴木良晴、竹田徳子、寺沢巧、徳川浩、藤田弘、
藤田房幸、藤田理恵、松浦良和、村松信夫
- 6 現地調査は掛川市教育委員会社会教育課の長井郁織が行った。
- 7 本書の執筆は長井郁織が行った。図版の編集は長井郁織、戸塚和美が行った。
- 8 本書はInkscape及びAdobe社InDesign2020とIllustrator2020によるデジタル編集を行っている。
- 9 調査に係わる諸記録及び出土遺物は、掛川市教育委員会で保管している。

凡　　例

- 1 掘図における方位は磁北を表す。
- 2 本書で使用した造構表記は、次のとおりである。
SB：堅穴住居跡、SH：掘立柱建物跡、SP：柱穴、小穴
- 3 本書で使用した柱間寸法は、柱間下端の中心間の数値である。

地理的環境

掛川市は静岡県西部、遠江の東部に位置する。市域の北部は掛川の最高点である八高山（832.1m）を中心とした山地、中央には古大井川の扇状地の隆起により形成された小笠山丘陵があり、南部に遠州灘を臨む。

本調査が実施された林遺跡は、和田岡と呼ばれる地域に位置する。この和田岡地域は、洪積世に原野谷川によって形成された河岸段丘である和田岡原を有しており、標高40～60m程度の和田岡原上は、市内でも特に遺跡の多い地域として知られる。林遺跡は和田岡原の東、原野谷川の西に位置する標高30m前後の微高地に占地している。

歴史的環境

ここでは、和田岡地区を中心とした原野谷川中流域の歴史環境を概観していく。

この地区で発見された考古資料のうち最古のものは、瀬戸山Ⅱ遺跡、上ノ段遺跡で出土した旧石器時代のスクレーパーである。縄文時代に入ると、瀬戸山Ⅰ・Ⅱ、向山、高田遺跡で押型文土器片が出土しており、旧石器時代から縄文時代早期にかけて人の活動があったことがうかがえるが、いずれも遺構を伴っていないため不明な点が多い。

縄文時代中期になると前述の遺跡の他、中原、吉岡下ノ段、吉岡原、女高Ⅰ遺跡など、和田岡原の広い地域で土器が出土している。中原、高田、今坂、瀬戸山Ⅰ遺跡では石囲い炉を伴う竪穴住居跡等が発見されるなど、人の活動が活発になった時期であることがうかがえる。

縄文時代後晩期になると様相は一転し、少量の土器が発見されるに留まっていることから、この地での集落は減少していたものと考えられる。

弥生時代に入ると、中期に比定される竪穴住居跡、方形周溝墓が女高Ⅰ遺跡で発見されているほか、今坂遺跡では土器棺墓が発見されている。

弥生時代後期から古墳時代前期は和田岡原上の遺跡数が爆発的に増加する時期である。発見される遺構のはほとんどは、竪穴住居跡や掘立柱建物跡で、当該時期に大規模な集落が営まれていたことが認められる。また、本書で報告する林遺跡においても、弥生時代後期の竪穴住居跡が発見されている。

古墳時代中期になると和田岡原上の様相は一変し、全長66mの前方後円墳である各和金塚古墳をはじめとした和田岡古墳群の他、段丘の縁辺部に小規模古墳が造営される。一方で、集落の発見例は少なく、古墳を造営した集団の動向は明らかになっていない。今後の調査成果が期待されるところである。

古代以降の様相については不明なところが多いが、林遺跡において13世紀を中心とした層敷跡と墓域が発見されている。

調査に至る経緯

平成 30 年 12 月、当地において建売住宅 2 棟の建築計画があることがわかり、事業者及び地権者と協議の上、平成 31 年 1 月 8 日に確認調査を実施した。計画地内にトレチを設定し掘削したところ、全域にわたり現代の宅地造成に伴い擾乱を受けていたが、時期不明の小穴及び、弥生時代から古墳時代の土器片が出土した。これを受け、事業者及び地権者と協議した結果、計画地のうちカーポートの造成が予定される東側部分において、遺跡の破壊が免れないことから、記録保存の為の本発掘調査を実施することとなった。

調査の方法と経過

今回の調査区は 167 m² とし、地形に合わせて 5 m 四方のグリッドを設定、遺物の取り上げ及び実測の基準とした。グリッドは東西の列を西から 1、2、3 とし南北の列を北から A、B とした。調査の経過については下記のとおりである。

平成 31 年 4 月 8 日

重機掘削 表土を重機（バックホウ）により除去。

遺構検出 人力により鉄箆等を用いて遺構検出面まで掘削し、遺構を検出。

4 月 9 日～

遺構掘削 人力により移植ゴテ等を用い、遺構を掘削。

4 月 11 日

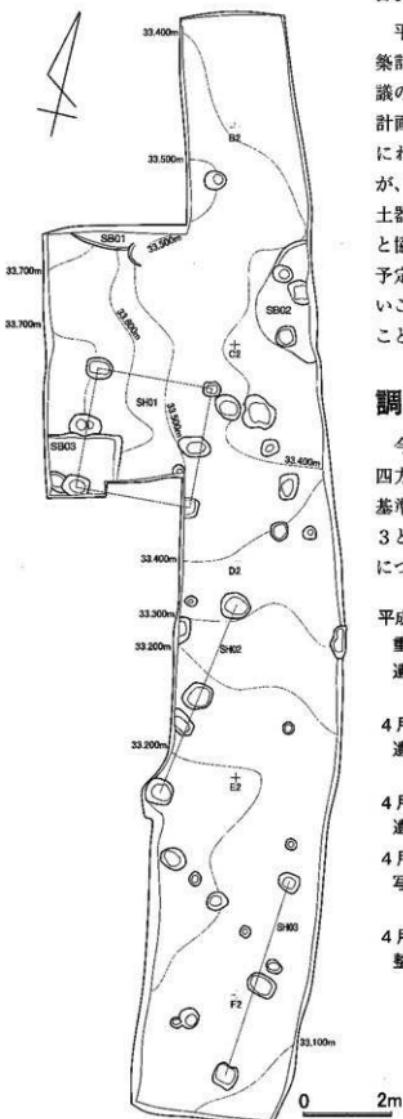
遺構実測 平面図を 1 / 20 で作成。

4 月 12 日

写真撮影 現地記録写真は、デジタル 1 眼レフカメラ（センサー サイズ APS-C）1 台使用。

4 月 15 日～令和 2 年 2 月 21 日

整理作業 土器は水洗い後バインダー液により強化。その後出土位置を注記し、実測等を実施。図面等は報告書用に編集し、原稿をまとめて印刷に付した。



第1図 遺構全体図

遺構

SB01（第2図）

B1区に位置する。残存状況は悪く、東側は現代の擾乱により破壊されている。また、北側の大半は調査区外であったため平面形は不明である。覆土には上器の微細片が混入していたが、時期が特定できる遺物の出土は確認されなかった。

SB02（第2図）

B2区からC2区に位置する。残存状況は悪く、西側から南側において明確な堀り方は検出されなかった。覆土には炉の残骸と考えられる焼土ブロックに混じり、現代のゴミも検出されていることから、西側から南側の大部分を擾乱されていると考えられる。

SB03（第3図）

C1区に位置する。残存状況は悪く、西側と南側の大半は調査区外であるものの、平面形は方形であることが予想される。出土遺物は1で、折り返し口縁をもつ壺の破片である。

SH01（第3図）

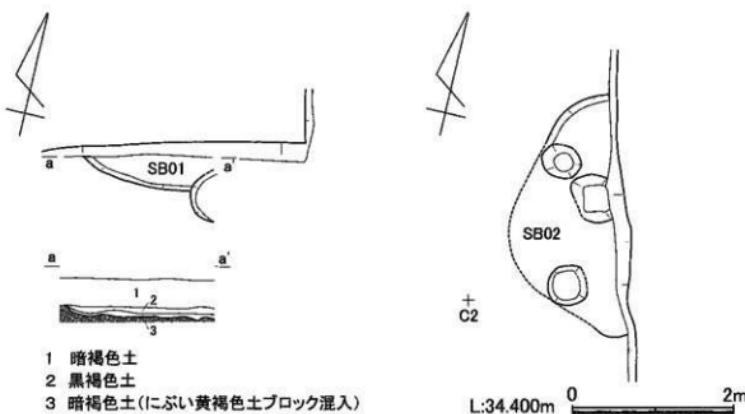
C1区に位置する。規模は約 $2.60\text{m} \times 2.80\text{m}$ である。SB03と切り合い、土層の堆積状況からSB03が先行する。また、覆土は黒褐色砂質土で3~5cm大の砾を含み、SH02、03とは明らかに相違が認められた。

SH02（第3図）

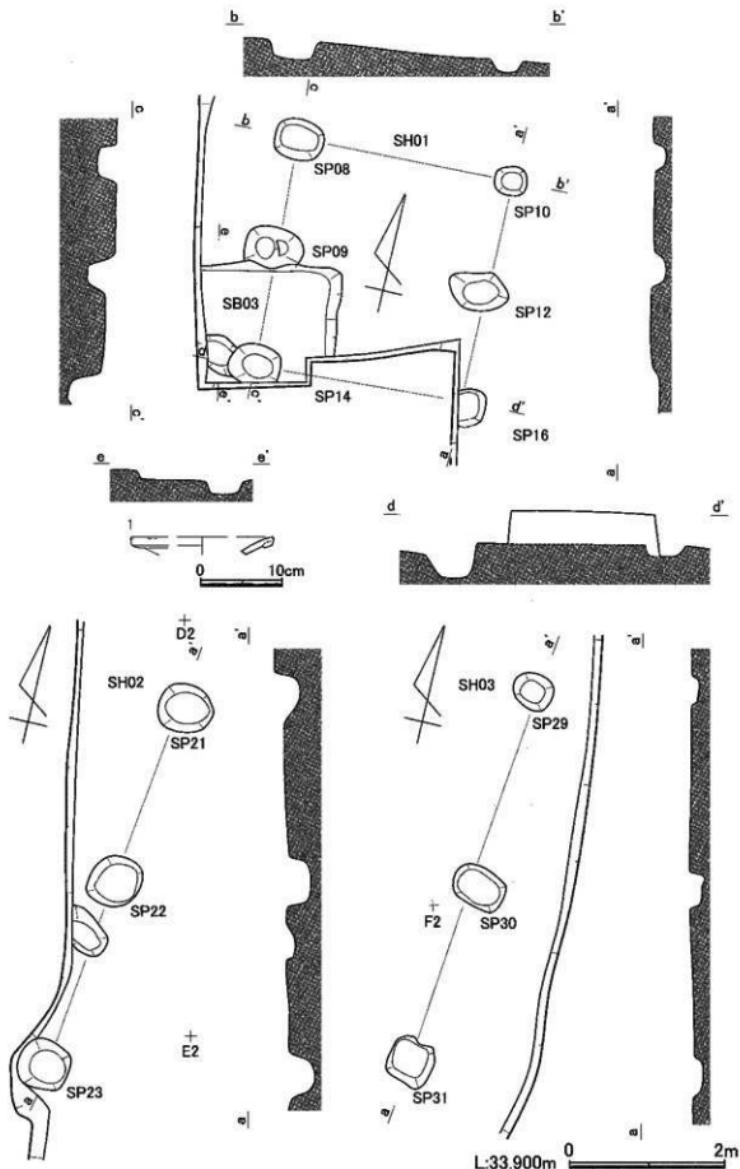
D1区からE1区に位置する。南北方向の規模は約4.7mで、対になる柱穴列は西側調査区外に位置すると考えられる。

SH03（第3図）

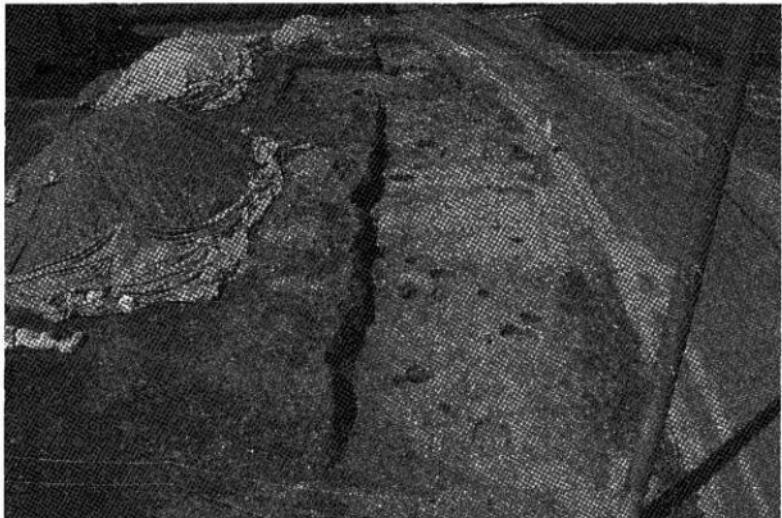
E2区、F1区、F2区に位置する。南北方向の規模は約4.7mで、対になる柱穴列は東側調査区外に位置すると考えられる。



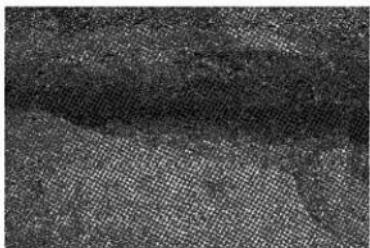
第2図 SB01・SB02実測図



第3図 SB03・SH01・SH02・SH03実測図



調査区全景(南から)



SB01完掘状況(南から)



SB03、SH01完掘状況(北から)



SH02完掘状況(北から)



SH03完掘状況(北から)

報告書抄録

ふりがな	はやしいせきだいななじはっくつちょうさほうこくしょ					
書名	林遺跡第7次発掘調査報告書					
編著者名	長井都織 戸塚和美					
編集機関	掛川市教育委員会					
所在地	〒436-8650 静岡県掛川市長谷1-1-1 TEL0537-21-1158					
発行機関	掛川市教育委員会					
発行年月日	2020年(令和2年)2月28日					
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
林遺跡	静岡県掛川市吉岡	34度 79分 28秒	137度 95分 31秒	2019年(平成31年) 4月8日 ～ 2019年(平成31年) 4月12日	167m ²	建売住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落	弥生時代 不明	竪穴住居跡 掘立柱建物跡		土器 なし		

林遺跡第7次発掘調査報告書

2020年(令和2年)2月28日

編集・発行 掛川市教育委員会 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1
印刷・製本 株式会社 幸栄グラフィック